

設立40周年記念 2025年9月印刷の月 記念式典

一般社団法人 日本印刷産業連合会



2025年「9月 印刷の月」講演会・記念式典・懇親会を開催

日印産連40周年特別表彰 [役員永年功労者(3名)、事業永年功労者(2名)、永年功労団体(10団体)]

日印産連表彰 [印刷功労賞(11名)、印刷振興賞(17名)、特別賞(1団体)]

一般社団法人日本印刷産業連合会は(磨 秀晴会長)、2025年「9月印刷の月」記念式典を、9月11日(木)東京・紀尾井町のホテルニューオータニ「鶴の間」に於いて、経済産業省をはじめとする各界からのご来賓や会員10団体、関連業界から多数の出席者を全国各地から迎えて開催した。今年は本木昌造氏没後150年にあたり、且つ日印産連設立40周年という節目の年となる。

記念式典に先立ち日印産連設立40周年を記念し、「印刷文化-印刷メディアの可能性」をテーマに、印刷博物館館長 京極夏彦氏による講演会が行われた(別掲P8)。

また本年は、従来の日印産連表彰「印刷功労賞」「印刷振興賞」「特別賞」に加え、40周年特別表彰「役員永年功労者」「事業永年功労者」「永年功労団体」を設け表彰を行った。受賞者を代表して40周年特別表彰を受賞した浅野 健氏が謝辞を述べた。

授賞式後に行われた懇親会は、堆 誠一郎日印産連 副会長の開会の挨拶に続き、印刷インキ工業会 横瀬幸弘副会長の乾杯のご発声によりスタートした。活気に包まれる中、参議院議員牧山ひろえ氏、前衆議院議員山田美樹氏のスピーチや数多くの祝電が披露されるなど、会話は途切れることなく印刷業界発展への親睦を深める場となった。中締めには会員10団体の会長が壇上に上がり、全日本シール印刷協同組合連合会 田中祐会長の挨拶で懇親会は閉会した。

磨会長あいさつ

記念式典は一同が起立、国歌斉唱によって開会した。開催にあたり主催者を代表し磨秀晴会長が登壇し挨拶を行った。

「本日は各界より多くのご来賓の皆様にご参加いただき、またご公務多忙の中、経済産業省 商務情報政策局より江澤正名 商務・サービス政策統括調整官をはじめ文化創造産業課の皆様にご臨席を賜りまして、誠にありがとうございます。

あわせて会員10団体の皆様ならびに関連業界の皆様には、日頃より格別なご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。今年も皆さまの多大なるお力添えのもとに「9月 印刷の月」記念式典を開催できますことに心から感謝申し上げます。

さて、本式典では例年、印刷産業の発展と印刷文化の昂揚に大きく貢献された方々に対しまして、「日印産連表彰」を行っております。設立40周年を迎えた今年は従来の表彰に加え、永年にわたり業界のためにご尽力いただいた方々に、「40周年特別表彰」を贈呈いたします。受賞者の皆様には、



主催者を代表して挨拶する磨 秀晴会長

心よりお祝いを申し上げます。

先ほどの講演会では印刷博物館の新館長に就任された京極夏彦先生にご登壇いただき、「印刷文化」をテーマに、印刷にまつわる技術やノウハウがこれからの社会にとっても大きな価値と可能性を持っていることを、力強くお話いただきました。印刷に深く関わる我々に、新たな気づきをいただくとともに未来に向け新たな挑戦をする意欲を呼び覚ます講演であったかと思います。

日印産連は、印刷産業の新しい価値を創造し、我が国の暮らしや文化を支える産業として、更なる発展を目指して、会員10団体と力を合わせ、サプライチェーン全体でのパートナーシップの構築と事業領域の拡大に向けた共創を推進してまいります。これからも皆様の一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます」と述べ、結びにご来賓の方々や会員10団体と関連業界の今後の発展と健勝を祈って挨拶とした。

来賓祝辞

壇上のご来賓紹介に続き、来賓を代表して経済産業省商務情報政策局 商務・サービス政策統括調整官の江澤正名氏から祝辞が述べられた。江澤調整官は、設立40周年・記念式典開催へのお祝いの言葉のあと、「印刷産業は、商業印刷や出版印刷をはじめ私たち身の回りの多くのものに関わっている身近で高度な産業です。その地域の顧客のニーズや昨今の産業構造にあわせた多様な事業展開によって、多くの製造業、サービス業、サプライチェーンにおける重要な役割と位置を占めると同時に、国民生活を支える重要な産業であると考えています。その中で貴連合会は、傘下に10団体、会員企業約5,866社を束ねる印刷業界の

中心として、紙の印刷産業だけでなく食品産業、梱包産業、建材、ラベル、電子部品、さらにコミュニケーション制作の企画・実行、映像、ウェブサービスと様々なコンテンツ制作に、印刷テクノロジーをベースとして事業領域を拡大するなど、多岐にわたる印刷産業の振興の要となる組織だと思っています。

経済産業省としても今年度、印刷設備の更新にご使用いただけるような施策を様々用意しておりまして、省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業費補助金(省エネ補助金)、さらに人手不足に対しては省力化を支援する中小企業省力化投資補助金(省力化補助金)など、省力化投資を支える支援策を提供しています。引き続き皆様の取り組みを最大限に支援して参りたいと考えています。

国内では数年にわたるDX、GXの成長投資が芽吹き、名目GDPは初めて600兆円の舞台に乗せました。こうした流れを確実なものとして、賃上げと投資が牽引する成長型の社会へと転換をしていくためにも、生産性を向上させ物価高に負けない賃上げを実現し、これを更なる投資と消費に繋げていかなければならないと考えています。

そのためには是非お願いしたいのが価格転嫁、取引の適正化ということです。今月は印刷の月間であるとともに、価格交渉促進月間でもあります。印刷業界においても価格転嫁のニーズは高いはずです。まずは価格交渉のテーブルに着き、委託発注元と議論いただくことだと思っています。そうした場を通じて発注元から積極的に賃上げの流れを作っていく取り組みをお願いしたいと思います。

全国の各地域に根ざして事業展開されている印刷業界の皆さまの発展なくして、日本経済の成長はないと考えています。今後も地域から日本を元気にしていただくことを期待しております」と述べた。



来賓祝辞 江澤正名経済産業省 商務・サービス政策統括調整官

2025 年度 日印産連表彰・授与式

日印産連設立40周年にあたる本年度は、「日印産連40周年特別表彰」「印刷功労賞」「印刷振興賞」「特別賞」の4賞の表彰となり、プレゼンターは磨会長が務めた。

役員永年功労者



役員永年功労者 3 名



田畠一彌氏（代理 田畠久義氏）



下谷隆之氏



浅野 健氏

事業永年功労者



事業永年功労者 2 名



須田治樹氏



牧山嘉道氏

永年功労団体



永年功労団体 代表者



永年功労団体 代表
日本印刷産業機械工業会 森澤彰彦氏

■日印産連40周年特別表彰

日印産連の活動を通じて印刷産業の振興に尽力した功労者を広く顕彰するものである。

【役員永年功労者】

日印産連役員を20年以上務めるなど特に顕著な功績を残された役員永年功労者に、田畠一彌氏（株式会社久栄社）、下谷隆之氏（株式会社千修）、浅野 健氏（株式会社金羊社）の3氏が表彰された。

【事業永年功労者】

事業永年功労者には、印刷サービス・グリーン基準の制定や2006年のグリーンプリンティング認定制度の創設から現在に至るまで審査員を務め、印刷業界の環境保全活動に尽力いただいた須田治樹氏と、プライバシーマーク審査センター設立時より審査委員長として個人情報保護の推進と制

度の信頼性向上のため尽力いただいた牧山嘉道氏に表彰状が授与された。

[永年功労団体]

賛助会員として長年にわたり日印産連の事業活動を支えていただいた10団体に感謝状が贈られた。各団体の代表者10名が登壇し、一般社団法人日本印刷産業機械工業会 森澤彰彦氏が代表して感謝状を受け取った。(別掲p10-11)。

■印刷功労賞

団体運営を通じて印刷産業の発展向上に寄与した方に

対して授与される印刷功労賞には、11名(別掲p12～14)が表彰され、株式会社白橋 代表取締役社長 白橋明夫氏が代表して表彰状を受け取った。

■印刷振興賞

業務の進歩改善に寄与された方、多年にわたり業界の指導に貢献された方に贈られる印刷振興賞には、17名(別掲p15～17)が選ばれ、二組に分かれ登壇し賞状の授与が行われた。北陽ビジネスフォーム株式会社 代表取締役会長 永野修一氏と株式会社共栄メディア代表取締役社長 錦山慎太郎氏がそれぞれを代表して表彰状を受け取った。

印刷功労賞



印刷功労賞受賞者の諸氏



印刷功労賞 代表 白橋明夫氏

印刷振興賞



印刷振興賞受賞者の諸氏 (1 組目)



印刷振興賞 代表 永野修一氏 (1 組目)



印刷振興賞受賞者の諸氏 (2 組目)



印刷振興賞 代表 錦山慎太郎氏 (2 組目)

■特別賞

特別賞は各種活動を通じて印刷産業界の地位向上に寄与された団体・個人等に贈られる。本年は、「紙」の良さを啓蒙するイベント「ペーパーサミット」を毎年開催し、印刷の可能性を業界以外に広く周知する活動を続けている大阪府印刷工業組合（理事長 高本隆彦氏）が受賞した。

特別賞



特別賞 大阪府印刷工業組合



特別賞 高本隆彦理事長

■受賞者代表謝辞

日印産連40周年特別賞を受賞した浅野 健氏が受賞者を代表して謝辞を述べた。

「私、振り返ってみると1972年に父が創業した印刷会社に入社してからの25年間ほどは、自社の営業からしか印刷業を認識する方法がなかったんです。他社のことは知りませんでした。ところが業界団体のお手伝いをさ



謝辞を述べる浅野 健氏

せていただくようになりますと、自分が世の中で一番苦労していたのではないかと思っていたのに、自分より苦労している方がいたじゃないですか……。ほかにも様々なことを教えていただきました。特に日印産連の歴代の会長、専務理事の方々は素敵なお方ばかりで、本当にいいご縁をいただきました。実際の営業では知り得ないことを教えていただいた—これが財産ですね。

つい最近もご縁があって長崎と大阪で開かれた本木昌造さんの没後150年の式典に行き参りました。大阪の会場だった四天王寺には本木昌造さんの立像がありました。戦時中の金属供出があったので戦後ダウンサイズされて再建された銅像ですが、驚いたのは本木さんの像は二本差なんです。考えてみれば武家の出身だから当たり前ですが、これまで顔写真だけを見てきたものですから驚きました。それから地元の方に、四天王寺は聖徳太子が開いたことや天王寺地区に寺はないことも教えてもらいました。これらの真偽はこれから調べようと思います。そうしてこのご縁によって秋の訪れとともに私の教養は深まることになるわけです。この“ご縁”というのは貴重です。特に東京生まれ東京育ちの私

にとって、全国各地の方とのご縁は本当にありがたいものだと思います。

これからの印刷産業をリードしてくれる若い人たちも目の前にいらっしゃいますが、安心してください。京極先生もおっしゃっていたように、日本の印刷産業は大丈夫ですよ。あなたたちがいるのだもの…。この後の懇親会でまた皆さんとご縁を紡ぎたいと思います。

改めて、受賞者の方々と一緒に日印産連の皆様に御礼を申し上げ、感謝の言葉にしたいと思います。本日はありがとうございました」と、謝辞を述べ、会場から祝福を込めた温かい拍手が送られた。

懇親会

記念式典が滞りなく終了したことが告げられ、懇親会は日印産連 堆 誠一郎副会長の開会の挨拶によってスタートした。「日印産連設立40周年おめでとうございます。また本日表彰を受けられた皆様、おめでとうございませう。

印刷産業は本木昌造さんから本格的に始まって現代に至っているという先ほどの京極先生のお話は、“お前たちもがんばれ!”と、とても勇気づけられる内容だったと感じました。今



開会にあたり挨拶する堆 誠一郎副会長



印刷インキ工業会 横瀬幸弘副会長による乾杯のご発声



牧山ひろえ参議院議員



山田美樹前衆議院議員



もIT、IoT、AI、生成AIの進化とあるように、私たちの業界を取り巻く環境の変化は昔からあって、それらをクリアして来たからこそ今の業界があるのです。これからがんばっていききたいと思います」。

続いて印刷インキ工業会の横瀬幸弘副会長が乾杯のご発声を行った。「昨年度、日印産連の皆様には、印刷インキ工業会が取り組む物流2024年問題、また電子取引の推進、各種化学物質への規制対応など印刷業界を取り巻く様々な課題に対し、深いご理解と多大なるご協力を賜り、ここに改めて感謝申し上げます。今後さらに我々を取り巻く環境は更に変化していくことが予想されます。デジタル化や環境課題など多くの問題に直面しておりますが、これは同時に新たなビジネスを生み出す大きなチャンスでもあります。私たち印刷インキ工業会も印刷業界に携わる一員として皆様と共に力を結集し、この大きな変化を乗り越え、新たな時代に対応した付加価値を提供して参りますので、今後ともご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます」の言葉のあと、一同グラスを手に

乾杯を唱和。談笑が続く会の中ほどには、参議院議員牧山ひろえ氏と前衆議院議員山田美樹氏から記念式典開催のお祝いと印刷業界の発展を祈るご挨拶をいただいた。

賑やかにフロアいっぱいに歓談が繰り広げられた会も終盤を迎え、日印産連の磨会長と10団体の各会長が壇上に紹介され中締めとなった。代表して全日本シール印刷協同組合連合会 田中祐会長から「先ほどの講演会では勇気づけられ、さらに発破をかけられたように感じました。印刷という技術の周辺を敢えて全て削ぎ落とし、そのコアバリューは何なのかを忘れずに掴んでいければ、どんな時代の変化や時流にも流されずにビジネスができるのだと強く思いました。また、日印産連が2030年に向けて取り組んでいるグランドデザインの再構築に関しても、素晴らしいヒントをいただけたと思います」とのご挨拶あり、三本締めで懇親会は終了した。



登壇した10団体代表の皆さま

全日本シール印刷協同組合連合会
田中 祐会長による中締め

40周年記念 講演会

印刷文化—印刷メディアの可能性

小説家 京極 夏彦氏



印刷は最初からデジタルだった

デジタルというのは総量を分割化して認識するということで、アナログというのは総量を全体の量として把握するということです。最初にデジタル化したのは言葉です。始め言葉はアナログである音＝声で発するしかなかった。それが文字というさらに補強する発明があったことで、より完成に近くなったわけです。つまり文字は言葉をデジタルとして徹底するためにできたものです。

しかし、情報を複製するには手書きで筆写するしかない時代が長くありました。そこに活版印刷という大量に複製する技術が生まれたんです。この技術の発明によって作られた概念、これが今の私たちの文化を創ることになるのです。デジタル化された情報は複製しても劣化しないし、情報は確実に複製できる。

この印刷というものが如何に私たちの生活文化を支えてきたかということに対して一般の方はあまりにも無自覚です。

メディアは変化する

石から布から紙へと変化しましたが、これはメディアの形が変わっただけで、やろうとしていることは同じです。今電子上でやりとりをしているPDFは、大昔に初めてデジタル化した人類の情報を、今やっと最善の形で使えるようになっただけです。メディアというのはそうやって変わっていくもので、イノベーションは常に繰り返されています。

印刷はもともとデジタルだったのです。何を今さら焦る必要があるでしょうか。遙か昔からあった概念を時代のニーズに合わせて作り変えてきたのが印刷の歴史です。自分たちが時代遅れだと思っただけはいけません。常に印刷は時代の最先端を行っているんです。

これから先もどんどんメディアのあり方は変わっていくと予測されます。しかし、何千年と続くこの仕事がどれだけの技術革新と進化をしてきたのかを考えれば、今の紙媒体から電子媒体に移るなんていうのは、たいしたことじゃない。必ず対応する形ができてくるし、それに応じて業態が進化、発展していくだろうと私は考えます。

新しいビジネスモデルが生まれるには

日本における出版の文化を考えてみれば、出版社（版元）が本を作るために版木を彫って、本を作って売っていた。それが書店、出版社、取次、印刷・製本と分かれていって、今の流通システムを含めたビジネスモデルが出来上がったわけであって、元はひとつだったのです。ですから新しいメディアが生まれ、新しいビジネスモデルを作るのであれば、一丸となるべきでしょう。

印刷に関わる様々な業態・業種の総体としてこの日本印刷産業連合会はあるのだと思います。横のつながりを持ち互いを尊重し、新しい時代の新しいスタイルのメディアに合わせた印刷を作り、仕事として成立させることは決して不可能なことではない。必ず道は開けるはずですよ。

“印刷の明日は明るい”

印刷は私たちの暮らしに絶対欠かせないものだった。そして印刷という技術が、私たちの今の文化や科学技術や生活を創ってきた。そしてそれは今でも欠かせないものとしてある。それはこれから先も変わらない。メディアというものは変わるかも知れないけれど、印刷という概念自体は今後ずっと変わらないのだということを感じておいていただきたい。今のこの世界は私たちが作ったのです。そしてこれからこの世界も私たちが創るのです。“印刷の明日は明るい”……印刷によって生を受け、印刷によって育ち、印刷をもって生業としている私の切なる願いでもあります。

京極夏彦氏プロフィール

1963年 北海道小樽市生まれ。

桑沢デザイン研究所、広告代理店、制作プロダクションを経てデザイン事務所を共同設立。1994年『姑獲鳥の夏』で作家デビュー。

日本推理作家協会賞、山本周五郎賞、直木賞、吉川英治文学賞等多数の文学賞を受賞。

2025年4月 印刷博物館 新館長に就任。